亜米利加合衆國人書翰和解　三通

4022

114
A 4200

宮内省圖書寮

軍艦コロラド於特センケント中者ノ
少佐ヲ命ジ書翰ヲ和解

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

拝啓拙者過日君の送禮る信書を僕の親友
當時ビルジニヤ兵学校教授コールジョンブローク氏
と相遇さ〻今取又回氏より君の信書并
僕の投書を封じ送り来る程を呈す
今茶利堅の山快より隔絶し高友の信書
を時々手に接し既に幸隔し年月を経
れ共回氏口不及ひ其人氏を思ふ厚意を
矣〻さるを西亜知独成長り君も嘗て

時間足の事と僕が疑念を容れざる所
なり
日本教育の義に付右日氏の論ずる所僕は於
ても甚同意なり蓋し此義に付精良と教則を
ほうるを先つへボン氏し字書ふ可欲階梯と
言論中に国人をして善き人物となし幸福
を得せしめんと欲せば先ず婦人を教育せよ
と方今大に国苦せざれを以然ざる所を

速に進ん志毛日方法を知る可し且日本
人民の驚強せしを疑ざる所の徒只亦
開拓せざる所の土地もふ少山羊羊家
畜才を開ふ土地も亦多し殊に更帳地のみ
き、を精選し獣肉を給し政府の保護する
時は不日甚富饒の地と為る之一面し
て米利堅に於て用ゆるジャガタラいも唐ち
さ抜き唐人菜等の品も亦よく繁生し

〆

他の人事をも達せんと欲られた筆我ま
雖正に所喜ま陽るものや
請君自重を加へよ

千八百七十二年十月十七日　ゼンケン

小野友五郎君
侍下

無學教師頭ブロークス軍艦コロラド
永務ゼンケンより書翰を和解

完

同友少野友五郎の投書紙中の貴論義を
洋見候ては不堪に称者今敢同氏面会
之及盛きを露所ふ明所を以て拙
して通達を待ふ君日本国の事情を実験し
以て恩高ちを愛し偏記ふ所の者を重
大とさ件よりて同国人物行儀の既に熟知
せ一所の者と甚合せり且我米利堅人
の如き恵らくを他国ふ者に比を稽を合点

国都府の人物たる所以の仁人君子の風
多しと雖日本にて堂々置所の留の手土
工者に高人等なる者を教養候基と此等
徒法に人君子たるべき者少くして小人
為きものを今般日氏書を送りて教育の事
件を論ず僕教頭たるを因て幸に教育の
事を知るを以たり教導上の事は其根本
工基き開化を進め良善を起すを主とする

国て今教則を編らるる方今日本に於て如
何の者を施すべき或僕に穢を知らしむ
と雖必ず一両名の事に出るを知るみ日本
教育を施すを直ち外国の方法を要せん
と欲するを知る是極らるを教育に
自国の方法をいて直ち外国の法を用
ゆ度のごとき穢を国て同民に告知
其教育を施行するに先つ初学の良

書数部を日本語に翻訳し国民一般の為に種々刊行して以て文明富国と教表
国表と共に儒学教育の用に供へ而して後高尚なる書も亦之に種々を譯せしめ遂に日本
に於て其国体を以て顕はす諸学科書全備
するに至る迄一切翻譯の事業を成し
て日本人の学問研究を一考を
命ずべし斯の如き教則に依て以て切に時い

天性に戻らしむ其模範学校と称する所の名義は肯うべき事自ら明らかなる
又日本の人物に於ては大に感称する若し英国
の高通して宣教バーコン氏の理学いまを
学業月を経て大に進歩する事一般
其速に其年事を以て勇て邪
人民一般学ひ学ぶべきならば之に種の為
日本に於て其貴人たるべき高貴士氣の

寒至り雪降る事を知る吾輩性質の冥化を
又自ら功績強盛なりて風俗の厚美器
械学の隆盛なるを知るなり而して本邦
独り其自然の高尚を顕して以て真正
の氣象を基本とし冥化の如き事を希望し
き事を希望し其教育の要を設ける所以
なを進歩をしむる所の者なり
古一条ノ件僕の思考を呈し呈下ノ徒を

以て為当とを深日本長官ノ命ニ幸ひ
られを進達ニ及ぶ所僕の大意ノ徒ノ
さるや
古の事件を深設する事甚簡易にして
若干ノ意を是を積ノ他ノ徒を詳論ス
へし
君ノ生ノ海界を世界ノ美景と思いさる
乱世他の開化をし筆下四ノ筆餞ノ僕

し紅行の愉快を夢みるく一勉る僕も
亦屡々行程を分ち高れば実に歓ぶべ
きい往り其旅行用和の妙なる事を知る
と雖ども

レキスレトンを山地なれども其候無らざるが
体業をなし即今其体業の半ば大振
交の間い海辺に日暑を避けると能今年
も暑氣に感傷も理学士に学んで改革

をなすことを夢るのなる如志士の事を
めるを偏せど面目の設睡増加らず
き事を知るべ
今宴に絶対らる所の学の別其技を以
ることを以て吾輩大に満足らず僕の所定の事
月に移てセさ〻ンを以時刻を監定し
家後に其に行る所の羊羹を治る
をもて楽を頃き夢時静に温僕に移て

[illegible]陛下の愈出御[illegible]ふ場

[illegible]

千八百七十二年第七月三十一日　フローク

ゼンケン君

抄ふ

[illegible]校教師頭ブロークと申者

山縣有朋に之書翰を和解

三月廿八日東京出発の貴書此日義を接
又彼地にふ場に於て過日二年前ワシントン府
に於て貴國貴計官従四位伊藤博文
面会せし時君の起居を尋問する所
所此使して貴國鉄道の事一勢改革当
の趣れり及へり且同君より船将鱗
を郵写真一葉を送れり就て僕の使
やうるを君に面達すべきらるに於せり

又僕の友人コレマンドルゼンケン（ワシントン）演説（ヲ）投書
して貴国各種〻新事一件あるを覚へり且方今
大改革を行ふを以て府内を面會の際ビルジニヤ兵学校の教
況を聞レキスントン住居せり此学校を西方
に於ける大學校の如き考へ
右に伝て僕生徒教育の新方御試験せし
事あり此等貴国に於ても要務なれも

僕の愚考を述べ進ぜ置いたのみ一日本
に於て教育〻一法を設置を要して而
これも自国の法に一致して外国のつとめ
らざるべからず
日本国人民一般に教育を施さんとせば
衆庶一致〻教道すに要する所の国初学
の書数部都て訳されを日本語に譯し
乃ち万国善国一に用ゐる教書のみ国表

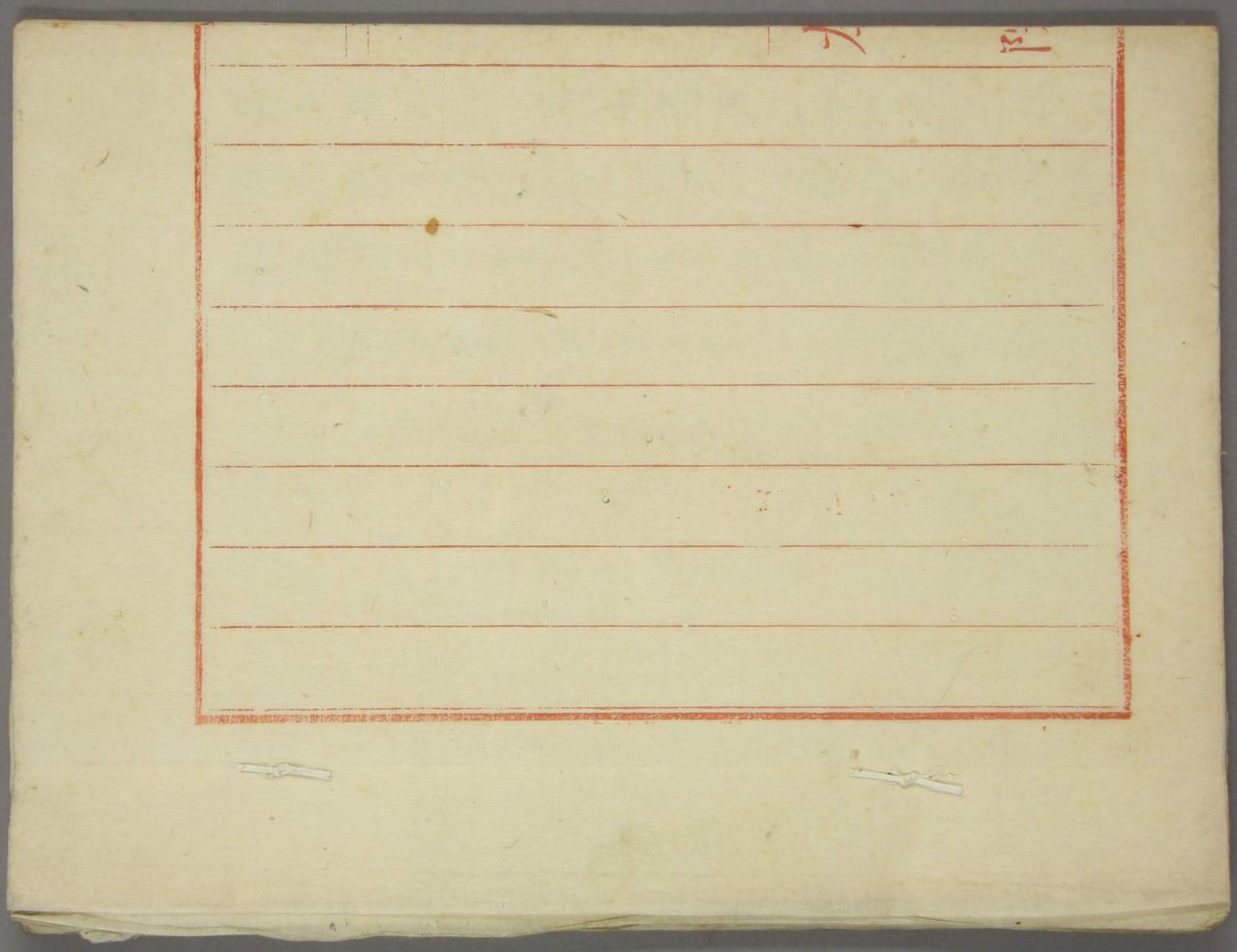
を記載せいてこれを行ふべしてこの
事業をなすに外國にて研學せし日本
人をして諸科の善書をよく譯し得る者
を日本政府に於て命じ而して其譯
書を刊行し諸學校に於てこれを用ひべし
新しく人民一般教育の為一層意匠なく
學科の書を譯せしめ刊行すべし終に學
問の諸科日本語をなせる初學及び高尚

なる諸書全備するに至れるときは本と雖
外國と異なるに至るべし若し斯の如く為
すして外國語を用ひ外國の書を以日本
を教育せんとすれば教育の法自由に
立ち難ふして外國語を學ひ外國人の如
く教育せらるべし所謂の者は自我外國の學
問を學ひ教育の事に就て每に外國の
法を仰くに至るべし而して既に數年を

経て勿論大に進歩したるも日本をして
と雖も能くこれを敵に僕が論ずる學問を
用ゆるを急務とし及ぶこれをもひ成功を奏
したるは日本に移て既に此學問を自国
の術に飜譯為さるを以て新のめくらを
当時に於ては學問大に盛大に帰し現今に
従来の學問を講習するに其歩異なる
事なきに至るも而して此學問終に日本

人国有の為に成を国民所有の習練に従
ひ進歩を能ふべし既に其練を外国と
優劣あるに至るべし僕君の速に四方あ
人事を希望し賢書の恵投実に雀躍
に不堪之庶幾くは君に待て以て事小
終を以を以て僕の使使何を乞に礼を如之
往年 ニウヨルク 於 京友の印として僕に賜
ふ所の時計殊に良品に礼を見る毎に

君を思ひてさるあらば且り在る程百僕の
友人たちろ〳〵ろと伺ふ〳〵腸ふへし君の
起居健やうなるら〳〵事を願ふ所首

千八百七十二年第七月二十五日　ビルシヤ兵学校ブローク

少野友五郎君